

D1 1 000 Air

D1 500 Air

D1 250 Air

D1 250

ユーザーガイド





プロフォト製品をお買い上げいただきありがとうございます。

D1をお買い上げいただいたお客様に心より感謝いたします。40年にわたり、私たちは完璧なライティングを追求してきました。私たちを後押ししてきたのは、最も要求の高いフォトグラファーに、さらに優れたツールを提供するのだという私たちの信念です。

私たちは、広範囲にわたる厳しいテスト・プログラムに合格した製品だけを出荷しています。製品すべてが、指定された性能、品質および安全性の基準に適合していることを確認しているのです。だからこそ、私たちのフラッシュ機器は、パリ、ロンドン、ニューヨーク、東京のほとんどのレンタル・スタジオで広く使われており、世界中のレンタル・フラッシュのスタンダードとなっているのです。

写真を見ただけで、プロフォトの機器が使用されているかどうかを見分けられるというフォトグラファーがいます。

40年間にわたり、世界中のプロフォトグラファーは、プロフォトのライティングおよびライト・シェイピングに対する専門技術を高く評価してきました。私たちの豊富なライト・シェイピング・ツールは、フォトグラファーが独自のライティングを創り、調整するための限りない可能性を提供しています。

すべてのリフレクターとアクセサリは特別な光を作り出し、ユニークなProfoto focusingシステムによってあなた自身の光を自在に作り出すことができます。

プロフォト製品を思う存分お使いください。

注意事項



安全上の注意！

怪我や損害を避けるため、以下の安全上の指示すべてを注意深く読み、従ってください。この注意事項は必ず装置とともに携帯し、いつでも参照できる状態にしてください！プロフォト製品はプロの使用を想定して設計されています。ジェネレーター、ランプヘッド、アクセサリー類は屋内での撮影以外に使用しないでください。湿気、極端な電磁場に露出する可能性のある場所または可燃性ガスやほこりのある場所で装置を置いたりまたは使用してはいけません。装置を水没させたり水滴のかかる場所で使用しないでください。水分の入った容器を装置の上やそばに置かないでください。湿度の高い状態で装置を極端に温度差のある環境に置くと装置の内部に結露が発生しますので絶対に避けてください。この装置は他メーカーのフラッシュ機器と接続しないでください。付属の保護用ガラスカバーまたは保護用グリッドが無い状態でフラッシュヘッドを使用しないでください。ガラスカバーにひび割れや深い傷など、目に見える損傷があり通常の効果が得られない状態になっている場合は使用せず正常なものと交換してください。ランプが損傷したり熱で変形した場合は交換してください。ランプをホルダーに取り付ける際は絶対に素手で電球を触らないよう注意してください。装置の点検、改造、修理は、公認の資格を持つ技術者によるのみ行うことができます。



注意 — 感電の危険 — 高電圧！

ジェネレーターの電源は常にアースのある電気コンセントに接続されていなくてはなりません。プロフォト製の延長コード以外は使用しないでください！ジェネレーターやランプヘッドの蓋を開けたり、分解したりしないでください！装置は高電圧の電力で作動しています。ジェネレーターのコンデンサは電源を切った後も長時間帯電したままになっています。アンブレラの金属製の支柱をリフレクターの穴に差し込む際はモデリングランプやフラッシュチューブに触れないよう注意してください。モデリングランプやフラッシュチューブを交換する際は、ランプヘッドとジェネレーターを接続するランプヘッドケーブルを取り外してから行ってください。



注意 — やけどの危険 — 高温部品！

装置の高温になっている部分には素手で触れないでください！モデリングランプ、フラッシュチューブ、その他いくつかの金属の部品は使用中に高温になります！モデリングランプやフラッシュチューブを人に向ける場合は充分注意して、近付けすぎないようにしてください。全てのランプはごくまれな条件下で爆発し、鋭利な破片が飛び散ることがあります！モデリングランプに接続する電源がユーザーガイドの技術資料の電源の欄に書かれている定格電圧に合致していることを必ず確認してください！



注意 — 装置が高温になる危険性

ランプヘッドの持ち運び用キャップは使用前に外してください！フィルターや拡散性の物質を装置の吸気口や排気口の前に置いて空気の流れを妨げたり、ガラスカバーやモデリングランプ、フラッシュチューブの上に直接置くことは絶対に避けてください！

廃棄

装置は環境に有害である可能性のある電気および電子部品を含んでいます。装置はプロフォト代理店で無料でご返却いただきリサイクルすることができます。廃棄の際は、廃棄物の個別処分のための現地の法的要件、例えばヨーロッパ市場での電気および電子器具のためのWEEE指令を遵守してください。

目次

システム概要.....	6
Profoto Air.....	6
Profoto Air Remote.....	7
Profoto Air Sync.....	7
Profoto Air USB.....	7
Profoto Studio Air.....	7
各部名称.....	8
機能.....	10
電源.....	10
エネルギーコントロール.....	10
モデリングライト.....	10
シンクロ信号.....	10
チャージ完了信号.....	11
チャージ完了ランプ/テスト機能.....	11
チャージ完了前のフラッシュ.....	11
リモートコントロール.....	12
色温度.....	12
リフレクター.....	12
アンブレラ.....	12
取り付けと各種設定.....	13
スタンドへの取り付け.....	13
外付けリフレクターの取り付け.....	13
アンブレラの取り付け.....	13
ガラスカバーの取り付け.....	13
電源接続.....	13
エネルギーレベル設定.....	13
モデリングライト設定.....	14
チャージ完了信号設定.....	14
ケーブルでのシンクロ.....	15
フォトセル/IRでのシンクロ.....	15
無線シンクロ(Profoto Airが内蔵されていないD1機の場合).....	15
無線シンクロ(Profoto Airが内蔵されたD1機の場合).....	15
無線設定(Profoto Airが内蔵されたD1機の場合).....	15
ユニットの電源を切る.....	16
メンテナンス.....	17
フラッシュチューブとモデリングランプの交換.....	17
内蔵ヒューズの交換.....	18
自動温度調節.....	19
技術 データ.....	20

システム概要

D1ユニットには、常に最新のフラッシュ装置を開発し続けてきたプロフォトの40年の歴史が凝縮されています。D1シリーズはプロフォトグラフィが求めるフラッシュ装置の条件である耐久性、耐衝撃性、スピード、安定性をあらゆる面で高い水準で満たしています。

Profoto D1には250、500、1000 Wsのバージョンがあり、全てのバージョンでProfoto Air機能が使用可能です。250WのバージョンではProfoto Airの無いタイプも選択できます。完全デジタル制御により、フラッシュ毎の色温度および出力エネルギーを一定に保ちます。デュアルモードSMPS(スイッチモードパワーサプライ)チャージテクノロジーがフラッシュ毎の精度を保証します。7段階のfストップ出力によってハイスピード・フルオープンでの撮影が可能になり、フォトグラフィの表現の可能性がさらに広がります。

内蔵リフレクターにより、光の拡散が最小限になるとともに出力される光の強さが最大になり、ユーザーが反射光を完全にコントロールできるようになりました。ソフトボックスやアンブレラを使用した撮影を想定して設計されており、追加のレフ板がある撮影にも無い撮影にも使用可能です。

非常に短い閃光時間により鮮明な画像が得られ、また充電時間が短いために次のフラッシュまで待つ必要がありません。どんなときでも思い描いたとおりの写真が撮れます。さらに、1/10fストップでのパワー制御が可能で、理想の画像が得られます。

プロのフォトグラフィには、それぞれのスタイルやこだわりの条件があるものです。プロフォトの豊富なライトシェイピングツールは新しいD1 Airに完璧にフィットし、光の形態を自由に変化させることができます。

Profoto Air

Profoto Airはフラッシュジェネレーターに便利なワイヤレスシンクロとリモートコントロール機能を追加するシステムです。Profoto Airシステムは世界中での使用を想定した2.4 GHz無線周波数帯域を採用しており、選択可能な8つの無線チャンネルのいずれかで動作します。

Profoto Airシステムを内蔵したプロフォト製品は、すべてProfoto Airシステムによってコントロールできます。Profoto Airを内蔵した品にはProfoto Airシンボルが表示されています。



Profoto Air Remote

Profoto Air RemoteはD1 Airのリモートコントロールと全てのD1ユニット同士のシンクロを可能にします。カメラから離れることなく片手で全ての制御を行うことができます。このデバイスで、実用上、台数の制限無くジェネレータを最大6つのグループに分けて個々のグループ毎に(マスターモードではすべてを同時に)コントロールすることができます。

Profoto Air Sync

Profoto Air SyncはProfoto Air Remoteと同様、実用上、台数の制限無くジェネレータをシンクロさせることができます。

Profoto Air USB

Profoto Air USBデバイスはUSB 2.0を利用してD1 AirユニットをPCあるいはMacにワイヤレス接続する送受信機です。Profoto Air USBを使えば最大300メートル(1000フィート)離れた場所からライティングの操作が可能です(遮蔽物が無い場合)。

Profoto Studio Air

Profoto Studio AirはPCにもMacにも使用できるソフトウェアです。コンピュータから全てのD1ユニットをワイヤレスで完全に制御することを可能にします。全てのユニットを個別に調整できるほか、複数のユニットをグループとして一度に操作することも可能です。さらに、自分の目的に合ったライティング設定を保存しておけば同じ設定を繰り返し利用することができます。

各部名称



- | | |
|-------------|---------------|
| 1. ディスプレイ | 9: チャージ設定 |
| 2. オンボタン | 9a. チャージ設定ボタン |
| 3. 電源ランプ | 9b. ブザーランプ |
| 4. テストボタン | 9c. DIMランプ |
| 5. チャージランプ | 10: モデリング設定 |
| 6. チャンネルボタン | 10a. モデルボタン |
| 7: 調節ノブ | 10b. PROPランプ |
| 8: スレーブ設定 | 10c. フリーランプ |
| 8a. スレーブボタン | 11. モデリングボタン |
| 8b. 無線ランプ | |
| 8c. IRランプ | |



機能

電源

D1ユニットは50-60Hzの100-120VACまたは200-240VACの電源に接続できます。ユニットを電源に接続すると自動的に電圧および周波数を感知して適応します。電源ヒューズは規格最小値より小さいものを使用しないでください。最小のヒューズは「技術データ」の項を参照してください。

800W以上の安定した電力を供給するほとんどの発電機はD1ユニットの電源として使用できます。

警告:



電源ケーブルを延長する際は、家庭用の延長コードは絶対に使用しないでください。オーバーヒートすることがあり危険です。使用前にコード巻き取り機から電源コードを引き出し、伸ばしてから使用してください。使用できる装置を確認するにはプロフォトの正規ディーラーに連絡してください。

デュアルモードSMPS技術により、D1はチャージ中に音が出る仕様になっています。これは完全に正常な音です。チャージが行われていることを確認するための音としてご利用ください。

エネルギーコントロール

フラッシュライトの現在のエネルギーレベルはfストップスケールでディスプレイ[1]に表示されます。最大エネルギー(100%)を10として表示されます。

調節ノブ[7]はエネルギーレベルの調節に使用します。1/10fストップまたは1fストップ単位で調節できます。

モデリングライト

モデルボタン[10a]は、モデリングライトの3つのモードのうち1つを選択するために使用します。

- ・ PROP: フラッシュライトのエネルギーレベルに応じてモデリングライトの強さを自動的に調節できます。
- ・ FREE: フラッシュライトのエネルギーレベルに関係なく、手動で自由にモデリングライトの強さを調節できます。
- ・ OFF: モデリングライトを使用しない設定です。

フリー状態のモデリングライトのレベルを設定するにはモデルボタン[11]と調節ノブ[7]を使います。

シンクロ信号

D1ユニットはケーブル、赤外線(IR)、またはProfoto Air無線システムを使ってシンクロできます。

- ・ 5メートルのシンクロケーブルはシンクロ延長ケーブルを使用して無制限に延長できます。プロフォト製シンクロ接続コードまたは市販のシンクロケーブルを使用してください。

- ・ 内蔵IR受信機はフラッシュの発光やほとんどの赤外線シンクロ送信機からの信号を検知することができます。
- ・ Profoto Air無線システムはD1ユニット本体内に組み込まれており、カメラに接続したProfoto Air RemoteまたはProfoto Air Syncデバイス、あるいはProfoto Airソフトをインストールしたコンピュータに接続されたProfoto Air USBデバイスと無線でシンクロします。
- ・ Profoto Air機能を持たないD1ユニットでも受信機としてProfoto Air RemoteまたはProfoto Air Syncデバイスを利用できます。これによりカメラに接続した他のProfoto Air RemoteまたはProfoto Air Syncデバイスと無線でシンクロできます。

チャージ信号

チャージ信号はユニットが完全にチャージされていることを示すものです。チャージボタン[9]で4種類のチャージ設定から1つを選択してください。

- ・ BEEP: ユニットのチャージが完了すると明瞭な「ブザー音」で知らせます。この設定にすることで、コントロールパネルでボタンを押したときや調節ノブを動かした際にも音が出るようになります。
- ・ DIM: ユニットのチャージ中にモデリングライトが消灯し、チャージが完了すると再び点灯します。この設定にしておくこととコントロールパネルの操作音が鳴らなくなります。
- ・ BEEP-DIM: ユニットのチャージ中にモデリングライトが消灯し、チャージが完了すると再び点灯します。さらに、ユニットのチャージが完了すると明瞭な「ブザー音」で知らせます。この設定にしておくこととコントロールパネルの操作音も鳴らようになります。
- ・ OFF: チャージ信号が無いモードです。この設定にしておくこととコントロールパネルの操作音が鳴らなくなります。

チャージランプ/テスト機能

ユニットのチャージが完了しフラッシュの発光が可能になるとチャージランプ[5]が点灯します。

テストボタン[4]は全てのライティングが正しく設定されているか、正常に機能しているかをテストするために使用します。テストボタン[4]を押すと、ユニットのフラッシュが発光し、チャージを始めるとチャージランプ[5]が消灯します。ユニットのチャージが完了すると、チャージランプ[5]が再び点灯します。

チャージ完了前のフラッシュ

「チャージ完了前のフラッシュ」機能はユニットのチャージが完全に終了していない段階でフラッシュを発光できるようにするものです。ユニットが100%充電されていない状態で発光すると、長いブザー音が鳴り、そのフレームの露光が不足していることを知らせます。当然、フラッシュの強さは設定されているよりも弱くなる場合があります。

リモートコントロール

D1ユニットではProfoto Air Remoteだけで、あるいはProfoto Air USBデバイスとProfoto Studio Airソフトウェアを組み合わせることで無線リモートコントロールが可能になります。

リモートコントロールについてのさらに詳しい情報は、Profoto Air RemoteまたはProfoto Air USB/Profoto Studio Airのユーザーガイドを参照してください。

色温度

D1にはお買い上げ時にフロストガラスプレートが付属しています。フラッシュチューブと組み合わせて使用することで太陽光タイプのフィルムで推奨される色温度を作り出すことが可能です。異なる種類の表面コートを施されたガラスカバーを使用することで様々な色温度に調整できます。

リフレクター

D1は内蔵リフレクターにより光の拡散が最小限になるとともに出力される光の強さが最大になり、ユーザーが反射光を完全にコントロールできるようになりました。外付けリフレクターを本体上のズームスケール[17]を利用してその位置を変えることで、ライティングの目的に合わせて様々な形態の光を作り出すことが可能です。

アンブレラ

D1には市販されているほとんどの種類のアンブレラを使用できるアンブレラホルダが付属しています。使用できるアンブレラの支柱の直径は7mmから8mmです。アンブレラを使用する場合は、同時に外付けリフレクターを取り付けることはできません。

取り付けと各種設定

スタンドへの取り付け

1. D1をスタンドに取り付け、スタンドアダプタ[18]のロックノブを回して固定してください。
2. ロックノブ[16]を緩めるとユニットが上下に向くように動かせます。ユニットの向きが決まったらロックノブ[16]を締めて固定してください。

外付けリフレクターの取り付け

1. 外付けリフレクターの留め具を緩めてください。
2. リフレクターをスライドさせてD1ユニットに取り付けてください。ズームスケール[17]を使ってリフレクターを希望の位置まで動かします。
3. 外付けリフレクターの留め具を締めてしっかりと固定してください。

アンブレラの取り付け

1. D1ユニットのアンブレラチューブ[15]にアンブレラの支柱を差し込んでください。
2. 数センチ入ったところで、摩擦が大きくなります。さらに奥までアンブレラの支柱を差し込み、アンブレラに入る光が最大になるようにしてください。

グラスカバーの取り付け

1. D1の電源が切れていること、電源ケーブルが抜かれていることを確認してください。
2. ユニットを使用した直後は、ユニット内部の電気が完全に放電される(自動放電機能)まで5分間待ってください。
3. フロストガラスプレートを慎重に取り外します。
4. 注意しながらグラスカバーをはめてください。安全ピンがグラスカバーのスロットに正しくはまっているか確認してください。

電源接続

1. 電源ケーブルをD1ユニットの電源コネクタ[13]に接続し、プラグをコンセントに差し込みます。
2. 電源ランプ[3]が赤になり、ユニットが電源に接続されているがスタンバイモードであることを知らせます。
3. オンボタン[2]を押してください。
4. 電源ランプ[3]が緑になります。

エネルギーレベル設定

1. フラッシュライトのエネルギーレベルを変更するには調節ノブ[7]を使います。

調節ノブ[7]を時計回りに回すとエネルギーレベルが1/10fストップずつ上がり、反時計回りに回すと下がります。

調節ノブ[7]を押したまま時計回りに回すとエネルギーレベルが1fストップずつ上がり、反時計回りに回すと下がります。

モデリングライト設定

1. モデルボタン[10a]を使ってモデリングライトを選択してください。
 - a. 比例モデリングライトに設定する場合は、モデルボタン[10a]を押してPROPランプ[10b]が点灯するまで押したままにします。
 - b. フリーモデリングライトに設定する場合は、モデルボタン[10a]を押してFREEランプ[10c]が点灯するまで押したままにします。フリーモデリングライトモードを前回使用した時に設定したエネルギーレベルが有効になります。
 - c. モデリングライトをオフにするには、モデルボタン[10a]を押します。PROPランプ[10b]とFREEランプ[10c]の両方が消灯します。モデリングライトを再びオンにするにはモデルボタン[10a]を押してください。

フリーモデリングライトのレベル変更の手順は次の通りです。

1. モデリングライトのモードがフリーに設定されていることを確認してください(モデリングライトをオンにするとFREEランプ[10c]が点灯します)。
2. モデルボタン[11]を押してください。ディスプレイ[1]が点滅を始め、フリーモデリングライトで現在設定されているエネルギーレベルが表示されます。
3. ディスプレイ[1]が点滅している状態で、調節ノブ[7]を使ってエネルギーレベルを変更してください。
 - a. 調節ノブ[7]を時計回りに回すとエネルギーレベルが1/10fストップずつ上がり、反時計回りに回すと下がります。
 - b. 調節ノブ[7]を押したまま時計回りに回すとエネルギーレベルが1fストップずつ上がり、反時計回りに回すと下がります。
4. ディスプレイ[1]の点滅が終わるまで待ってください。(このとき、ディスプレイ[1]にはフラッシュライトのエネルギーレベルが表示されます)

チャージ信号設定

1. チャージボタン[9a]を使ってチャージ信号を選択してください。
 - a. ブザー信号に設定する場合は、チャージボタン[9a]を押してBEEPランプ[9b]が点灯するまで押したままにします。
 - b. 光信号に設定する場合は、チャージボタン[9a]を押してDIMランプ[9c]が点灯するまで押したままにします。
 - c. 光信号とブザー信号両方に設定する場合は、チャージボタン[9a]を押してBEEPランプ[9b]とDIMランプ[9c]が両方点灯するまで押したままにします。
 - d. チャージ信号をオフにするには、チャージボタン[9a]を押します。BEEPランプ[9b]とDIMランプ[9c]の両方が消灯します。チャージ信号を再びオンにするにはモデルボタン[9a]を押してください。

ケーブルでのシンクロ

1. カメラのシンクロケーブルをD1ユニットのシンクロコネクタ[12]に接続してください。

IR同期

1. IRランプ[8c]が点灯するまでスレーブボタン[8a]を押し続けてください。

無線シンクロ(Profoto Airが内蔵されていないD1機の場合)

1. Profoto Air RemoteまたはProfoto Air Syncデバイス(受信設定)をケーブルでD1ユニットのシンクロコネクタ[12]に接続してください。
2. Profoto Air Remote/Profoto Air Syncのユーザーガイドを参照して、Profoto Air受信機が内蔵されていないジェネレータの手順に従ってください。

無線シンクロ(Profoto Airが内蔵されたD1機の場合)

1. 無線ランプ[8b]が点灯するまでスレーブボタン[8a]を押し続けてください。
2. 下の無線設定の説明に従って無線のチャンネルを選択してください。
3. Profoto Air RemoteまたはProfoto Air Syncデバイスをカメラに接続してください。
4. Profoto Air Remote/Profoto Air Syncのユーザーズガイドを参照して、Profoto Air受信機が内蔵されているジェネレータ用の手順に従ってください。

無線設定(Profoto AirのあるD1機の場合)

無線シンクロの場合、D1ユニットとProfoto AirデバイスまたはProfoto Astudio Airソフトウェアを同じ無線チャンネルに設定する必要があります。

Profoto Air Remoteを利用してリモートコントロールを行う場合は、D1ユニットとProfoto Airデバイスを同じ無線チャンネルとグループに設定する必要があります。

Profoto Air USBとProfoto Studio Airを利用してリモートコントロールを行う場合は、D1ユニットとProfoto Airデバイスを同じ無線チャンネルに設定する必要があります。

1. D1ユニットの無線ランプ[8b]が点灯していることを確認してください。
2. チャンネルボタン[6]を押してください。ディスプレイ[1]が点滅を始め、左側に現在の無線チャンネルの数字が、右側に無線グループの文字が表示されます。
3. ディスプレイ[1]が点滅している状態で、調節ノブ[7]を時計回りに回すと無線のチャンネルの数字が増え(1から8まで)、反時計回りに回すと減ります。
4. ディスプレイ[1]が点滅している状態で、調節ノブ[7]を押したままで時計回りに回すと無線グループの文字が進み(AからFまで)、反時計回りに回すと戻ります。

5. ディスプレイ[1]の点滅が終わるまで待ってください。(このとき、ディスプレイ[1]にはフラッシュライトのエネルギーレベルが表示されます)

Profoto AirデバイスおよびProfoto Studio Airソフトウェアでの無線チャンネルとグループの設定については、それぞれの機器のユーザーガイドを参照してください。

ユニットの電源を切る

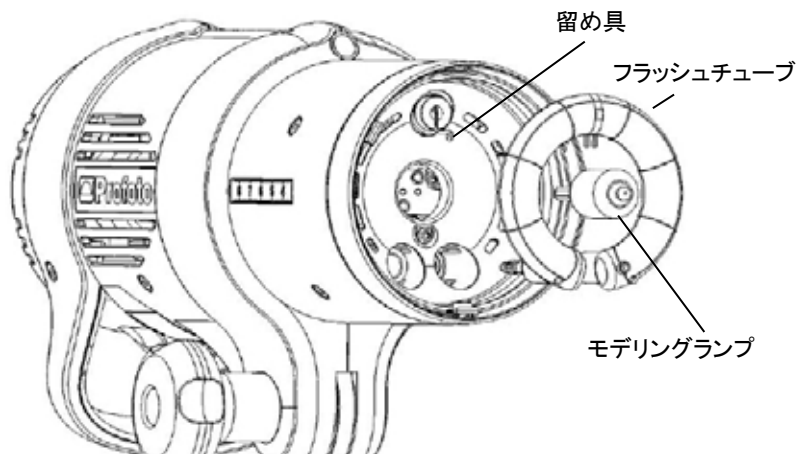
ユニットがスタンバイモードの状態では、全ての設定が保存されたままになります。電源ケーブルを抜くと、モデリングライトの設定は初期設定状態に戻ります。モデリングライトがオフになり、フリーモデリングライトのエネルギーレベルの設定は10になります。

1. 電源を切るにはオンボタン[2]を押してください。
2. 電源ランプ[3]が赤になり、ユニットが電源に接続されているがスタンバイモードであることを知らせます。
3. 電源ケーブルを外してください。

メンテナンス

フラッシュチューブとモデリングランプの交換

1. D1の電源が切れていること、電源ケーブルが抜かれていることを確認してください。
2. ユニットを使用した直後は、ユニット内部の電気が完全に放電される(自動放電機能)まで5分間待ってください。
3. フロストガラスプレートを慎重に取り外します。
4. フラッシュチューブの交換:
 - ・ 留め具の周りのステンレス製リボンを緩めてフラッシュチューブのトリガワイヤから外してください。
 - ・ フラッシュチューブの下の部分を持ち、まっすぐにソケットから抜き出します。
 - ・ 新しいフラッシュチューブを差し込む際は、トリガワイヤがフラッシュチューブに正しく巻きついていることを確認してください。
 - ・ 留め具の周りのステンレス製リボンを締めてフラッシュチューブのトリガワイヤを固定してください。
5. モデリングランプの交換:
 - ・ ソケットからまっすぐにランプを引き抜いてください。
 - ・ 新しいモデリングランプをまっすぐソケットに差し込んでください。ランプには素手で触れないよう注意してください。
6. 注意しながら、フロスト面が内側になるようにガラスカバーをはめてください。安全ピンがガラスカバーを正しく保持しているか確認してください。



内蔵ヒューズの交換

1. D1の電源が切れていること、電源ケーブルが抜かれていることを確認してください。
2. ユニットを使用した直後は、ユニット内部の電気が完全に放電される(自動放電機能)まで5分間待ってください。
3. ヒューズホルダー[14]をユニットから引き抜き、古いヒューズを外してください。
4. 新しいヒューズを最後までヒューズホルダーに押し込んでください。推奨ヒューズ以外は使用しないでください。推奨ヒューズは技術資料を参照してください。
5. ヒューズホルダーをカチッと音がするまで静かに押入れ、元の位置に戻してください。

自動温度調節

D1ユニットには自動温度調節システムが搭載されています。連続使用や外的な要因によってユニットが加熱する恐れがある場合に、温度調節システムが自動的にユニットを損傷から保護します。マイクロプロセッサが4つの温度センサーからの情報を元にユニットを監視・制御しています。センサーが温度の上昇を感知した場合、マイクロプロセッサは自動的にユニットを保護するための処理を行います。最初の処理は内蔵ファンのスピードを上げることです。ファンのスピードを最大にしても温度が下がらない場合、自動的にモデリングライトがチャージ中オフになるようになります。次の段階ではモデリングライトが完全にオフになり、チャージが遅くなります。最後にチャージが完全にストップします。時間が経って温度が充分下がると、ユニットは通常の高速度でチャージするようになります。このような自動保護機能が作動するのは、通気孔が塞がれているなどの異常な環境で使用している場合だけです。

バージョンによって異なりますが、D1ユニットは最大で1時間に1000回のフルパワーでのフラッシュに耐えることができます。ただし、必要以上の負荷がかかる使用はフラッシュバルブの寿命を縮めるため推奨されません。

不具合のあるフラッシュヘッド(例:フラッシュチューブに損傷がある、正常に発光しないなど)を使用していると、フラッシュを発光した後に長いブザー音が鳴り露光が充分でないこと/正常に機能していないことを知らせます。

注意:

ユニットの通気孔はどのような形でも絶対に塞いだり、覆ったりしてはいけません。暑い日や日差しの強い日に、フラッシュ機材を車の中に置かないでください。D1ユニットを、ケースや持ち運び用ボックスに入れたまま使用しないでください。ユニットを零下や零度に近い低気温の場所に置かないでください。ユニットを冷たいまま使用すると、正常に作動せず、損傷したり本来の容量(フラッシュ出力)を失う場合があります。また、寒い場所から暖かい場所にユニットを移動した場合にユニットの内部に結露が発生し故障の原因になります。どんなフラッシュ装置も高湿度の環境、水気の多い場所、または強力な電磁波が発生する場所で使用しないでください。

技術データ

D1 1000 Air

D1 500 Air

D1 250 Air

D1 250

20

仕様	D1 1000 Air	D1 500 Air	D1 250 Air D1 250
電力(Ws/J)	1000	500	250
出力レンジ fストップ	7	7	7
Ws	15.6-1000	7.8-500	3.9-250
出力レンジ	1/1-1/64	1/1-1/64	1/1-1/64
出力ステップ	1/10	1/10	1/10
閃光時間(s)t0.5 最小—最大	1/700-1/1800	1/1000-1/2600	1/1400-1/3700
チャージ時間(s)230V	0.2-2.0	0.2-0.95	0.2-0.65
チャージ時間(s)120V	0.2-2.0	0.2-0.95	0.2-0.65
色温度安定性 K	+/- 30	+/- 30	+/- 30
色温度 K	5600	5600	5600
出力精度(フラッシュ 間) fストップ	±0.05	±0.05	±0.05
内蔵リフレクターによる 光拡散	77 °	77 °	77 °
マルチボルテージ	あり	あり	あり
電源ヒューズ 200-240VAC	6 amp	6 amp	6 amp
電源ヒューズ 100-120VAC	10 amp	10 amp	10 amp
内蔵ヒューズ	T10AH 5x20	T10AH 5x20	T10AH 5x20
モデリングランプ	120V, 300W	120V, 300W	120V, 300W

仕様	D1 1000 Air	D1 500 Air	D1 250 Air D1 250
モデリングライト機能	オフ/比例/フリー	オフ/比例/フリー	オフ/比例/フリー
シンクロモード サイズ	ケーブル/IR/Air	ケーブル/IR/Air	ケーブル/IR/Air
大きさ 単位mm (長さ、直径)	300x130 (スタンドアダプター含め170)		
大きさ 単位インチ (長さ、直径)	11.8x5.12 (スタンドアダプター含め6.69)		
重量	2.94 kg/6.48 lbs	2.43 kg/5.36 lbs	2.23 kg/4.91 lbs

すべてのデータは公称値であり、プロフォト社は予告なしに変更する場合があります。

このページは故意に白紙のままになっているものです。

このページは故意に白紙のままになっているものです。

技術的なデータは予告なしに変更される場合があります。

344091-1-320. Printed in Sweden.

Profoto AB
P.O. Box 2023
SE-128 21 Skarpnäck
SWEDEN

Phone +46 8 447 53 00
info@profoto.com
www.profoto.com



Profoto[®]
The Light Shaping Company™